



PORSCHE

12. Jun. 2017

Vol.92/17

総合優勝を目指して厳しい戦いに挑むポルシェ LMP チーム

ル・マン 24 時間レース LMP1 プレビュー

ポルシェ AG (本社: ドイツ、シュトゥットガルト 社長: オリバー・ブルーメ) にとって、シーズンハイライトに向けたカウントダウンが最後の瞬間を告げようとしています。6 月 17~18 日、ル・マン 24 時間レースで 3 年連続での優勝を目指し、この耐久レースの輝かしい栄冠のためにポルシェは再び戦うこととなります。サーキットでの最強のライバルはトヨタです。この日本のメーカーは、まだル・マンで優勝したことがありません。2016 年、トヨタは技術的な不具合によってレース終了のわずか数分前にリタイヤし、劇的な結末を迎えました。2017 年、トヨタはトップカテゴリーである LMP1-H クラス 3 台のマシンをエントリーさせて、2 台のポルシェ 919 ハイブリッドと争います。

5 人の総合優勝経験者を擁するポルシェのドライバーラインナップ:

カーナンバー1 のポルシェ 919 ハイブリッドのステアリングをシェアするのは、ニール・ジャニ (33 歳、スイス)、アンドレ・ロッテラー (35 歳、ドイツ)、ニック・タンディ (32 歳、ドイツ) です。この 3 人のドライバーは、合計でル・マン参戦 20 回、総合優勝 5 回という経歴です。まず、ジャニ (参戦 8 回、総合優勝 1 回) は唯一の 2017 年のル・マンのタイトルデフェンダー兼 FIA 世界耐久選手権現チャンピオンで、また 2015 年以来、予選ラップ記録保持者でもあります。ロッテラー (参戦 8 回、総合優勝 3 回) はこれまでアウディで華々しいキャリアを積み、今回がポルシェをドライブする初めてのル・マンとなります。タンディがル・マンの LMP1 クラスで戦うのは、これが 2 回目です。GT クラスでは 3 回参戦し、2015 年には LMP1 へ初参戦ながらポルシェ 17 回目の総合優勝を果たしました。

もう 1 台のマシンのドライバーとして名を連ねる、アール・バンバー (26 歳、ニュージーランド)、ティモ・ベルンハルト (36 歳、ドイツ)、ブレンドン・ハートレー (27 歳、ニュージーランド) は、合計でル・マン参戦 17 回、総合優勝 2 回という経歴です。バンバー (参戦 2 回、総合優勝 1 回) は、2015 年、タンディと一緒に LMP1 のニューカマーながら優勝し、2016 年は GT クラスでポルシェをドライブしました。3 人の中で最も経験豊富なベルンハルトは、ル・マン参戦 10 回で、最初の 2002 年には GT カテゴリーへポルシェから参戦し、クラス優勝を果たしました。このポルシェのワークスドライバーがアウディで参戦した 2010 年、ベルンハルトの名は総合優勝のトロフィーに刻まれています。ハートレー (参戦 5 回) は 2014 年以来ベルンハルトとコックピットを共有しており、全てのドライバーの中で一番ハングリー精神が旺盛です。なぜならこれまでル・マンで大きな勝利を経験したことがない為、栄冠を手にしたと熱望しているからです。

時間との戦い、天候との戦い、トヨタとの戦い:

LMP1 担当副社長のフリッツ・エンツィンガーは、激戦となることを自覚して、次のように述べています。「2017 年のル・マンは非常にハードなレースになるでしょう。2016 年よりもさらに速くなる可能性があります。トヨタとの対決というだけではありません。ル・マンの過酷さは、レースそれ自体です。昼夜、変化する気象条件の中、330 km/h を超える速度で絶えず

ライバルを追い抜き、周回遅れにさせながら走破する 5,000 km を決して軽く見てはなりません。どの瞬間に何が起こるかわからず、何の保証もありません。事前に十分に準備をし、完璧に作業をし、事故のないレースをして、初めてル・マンで大きなトロフィーを獲得するチャンスが得られます」。

チーム監督のアンドレアス・ザイドルも「ル・マンが世界で最も過酷なレースなのは、単に走る距離が長いからではありません。イベント全体を通じて自分のペースを崩さず、リソースを管理する必要があります。これは 2 週間以上続きます。この間、限られたスペースにおいて、90 人のスタッフが張り詰めた雰囲気の中で緊密に連携して作業します。喜ばしいことも大変なことも、一緒に体験します。土曜の午後 3 時には、チームのメンバー全員が、メカニックもドライバーも、チームの誰であれ、肉体的・精神的にレースに向けてフレッシュな状態になればなりません。ここで、私たちが学び、実践してきたことを全て出し切ることが重要です。私たちは技術的にできることは全てやり、戦略的にもル・マンに向けて準備してきました。ポルシェ 919 ハイブリッド、強力なドライバーの布陣、そしてチーム。いずれも全力を尽くす準備ができています」と語ります。

ポルシェ 919 ハイブリッド：

2017 年の選手権に向けて、ポルシェ 919 ハイブリッドには幅広い改良が加えられました。このル・マン・プロトタイプのコンポーネントは、エアロダイナミクス、シャシー、内燃エンジンを中心に 60%~70%が新たに開発されています。ただし、パワートレインは原則として同じままです。この革新的なハイブリッドレーシングカーは、システム全体で最高出力約 900 PS (662 kW) を発生します。その源となっているのは、コンパクトな 2 リッター V4 ターボエンジン (約 500 PS/368 kW) と、2 種類のエネルギー回生システム (フロントアクスルからのブレーキエネルギーと排気エネルギー) です。内燃エンジンはリアアクスルを駆動し、出力 400 PS (294 kW) 以上の電気モータはフロントアクスルをブーストします。フロントブレーキとエグゾーストシステムから得られる電気エネルギーは、一時的に水冷式リチウムイオンバッテリーに蓄えられます。

世界選手権：

この 24 時間レースは、2017 年 FIA 世界耐久選手権の全 9 戦中、第 3 戦にあたります。2 つの 6 時間レース (シルバーストーンとスパ) 終了時点で、ポルシェは 61 ポイントを獲得し、コンストラクターズ・スタンディングスでトヨタ (69.5 ポイント) について 2 位となっています。ドライバーズ・スタンディングスでは、バンバー/ベルンハルト/ハートレーは 2 位 (33 ポイント)、ジャニ/ロッター/タンディは 3 位 (28 ポイント) となっています。トップのトヨタの 2 人組は 50 ポイントです。

サクセスストーリー：

1970 年、ポルシェはル・マンで待望の総合優勝を手に入れました。1998 年までにさらに 15 回の総合優勝を果たしましたが、その後は 15 年間、ポルシェはトップカテゴリーで戦うことはやめ、いくつかのクラス優勝のみを記録しました。2011 年、ポルシェはプロトタイプによってル・マンへ復帰することを決めました。世界耐久選手権の新しい効率のレギュレーションは、まさにポルシェが長年トップレベルのモータースポーツに求めてきたもので、市販車向けの未来のテクノロジーの研究開発の基礎となるものだったからです。

2012 年と 2013 年は準備に費やされました。シュトゥットガルト近郊にあるヴァイザッハの

ポルシェ研究開発センターに新しい建物が出現し、フリッツ・エンツィンガーが集めたチームには、今や 260 人の高度な能力を持つ従業員が加わっています。こうして誕生したポルシェ 919 ハイブリッドは、以前はそれほど知られていなかったハイブリッドテクノロジーを採用した、まったく新しい車でした。初期の頃はトラブルにも見舞われましたが、それ以来、大きな進歩を遂げました。

2014 年は、今日なお世界で最も革新的であり続けているレーシングカーのデビューシーズンとなりました。919 ハイブリッドは、初挑戦となったル・マンにおいて、レース開始から 20 時間後にトップに立ちましたが、その 2 時間後にエンジンの故障によってリタイヤしました。2015 年、ポルシェは 3 台目の 919 ハイブリッドをエントリーさせ、LMP1 ルーキーであったアール・バンバー（ニュージーランド）、ニコ・ヒュルケンベルク（ドイツ）、ニック・タンディ（イギリス）の 3 人組が 1998 年以来となるポルシェ 17 回目の総合優勝をつかみ取りました。昨年は、ロマン・デュマ（フランス）、ニール・ジャニ（スイス）、マルク・リーブ（ドイツ）の尽力により、長時間にわたるトヨタとの激戦の末、2 年連続の総合優勝を果たしました。

ポルシェ LMP チームのスケジュール：

レース前の日曜日となる 6 月 11 日、ル・マンのレピュブリック広場において、4 クラスに分かれる 60 台のレーシングカーの技術検査からプログラムが始まります。翌 12 日までに検査官たちがすべての車両を検査し、180 人のドライバーが書類を提出します。

6 月 13 日（火曜）：

午後 2:00~2:50 スタート/フィニッシュ地点でのポルシェチームの写真撮影

午後 5:00~6:30 ピットレーンでのサイン会

6 月 14 日（水曜）：

午後 4:00~8:00 フリー走行

午後 10:00~深夜 予選

6 月 15 日（木曜）：

午後 7:00~9:00 予選

午後 10:00~深夜 予選

6 月 16 日（金曜）：

午前 10:00~午後 6:00 ピットウォーク

午後 2:00~2:40 ポルシェ エクスペリエンスセンターでのポルシェ記者会見

午後 2:40~3:30 ポルシェ エクスペリエンスセンターでの「ミート・ザ・チーム」

午後 5:30~7:30 ダウンタウンエリアでのドライバーズパレード

6 月 17 日（土曜）：

午前 09:00~09:45 ウォーミングアップ

午後 2:22 レーススタートセレモニー開始

午後 3:00 レーススタート

テレビおよびライブストリーム：

ル・マン 24 時間レースは、世界中の多くの国際テレビチャンネルで放映されます。各国における詳細情報については、<https://newsroom.lemans.org/24-heures-du-mans-en/>で閲覧可能です

(ダウンロードセクションの「TV Distribution」をクリック)。

ポルシェのウェブサイト www.porsche.com/lemans では、ワークスカーのコックピットからのライブ車両カメラの映像が 24 時間ウェブスペシャルで映し出されます。さらに、ビデオストリームでは、現在の車両コンディションについての興味深い遠隔測定情報が得られます。この他、ウェブサイトでは、ライブテロップとライブ順位、そしてル・マンのレースの画像と映像が配信されます。

Facebook : 土曜の午後 3 時、919 ハイブリッドからのレーススタート時の車載映像が www.facebook.com/porsche でライブ配信されます。

アプリ : WEC 公式アプリが無料でダウンロードできます。有料の拡張バージョンも用意されており、完全な ACO ライブストリーミングとル・マン 24 時間レースの完全な計時が含まれます。ライブストリームは音声付きで、ライブインタビューも含まれます。

基本情報 :

- ・ 2015 年以来、ニール・ジャニは現在のトラックレイアウト (13,629 km) での予選ラップ記録を保持しています。この年の水曜日の予選で、午後 10 時を少し回ったとき、919 ハイブリッドによって 3:16.887 のラップタイムを叩き出したのです。平均速度は 249.2 km/h でした。

- ・ 過去最速の予選ラップは、1985 年、ハンス=ヨアヒム・シュトゥックがポルシェ 962 C によってマークした 3:14.800 です (平均速度 251.815 km/h)。1990 年、ミュルサンヌのロングストレートをなくすためにシケインが設置されました。現在のサーキットに置き換えた場合、スタックの記録を破るには 3:14.843 以下のラップタイムが必要となります。

- ・ これまで 84 回開催されてきた中での総合ファステストラップタイムは、1971 年のテストデーでジャッキー・オリバーが樹立した記録です。当時のコース全長は 13.469 km で、彼はポルシェ 917 によって 3:13.6 をマークしました (平均速度 250.457 km/h)。同じ年、彼は最速レースラップ 3:18.4 を達成しました (平均速度 244.387 km/h)。

- ・ 2016 年、ニール・ジャニがル・マンでポルシェ 18 回目となるポールポジションを獲得 (3:19.733)、ティモ・ベルンハルトが予選 2 位につけ (3:20.203)、これによってポルシェはル・マンで 15 回目となる最前列独占を果たしました。

- ・ レースで最長距離を走破したのは、2010 年にアウディで総合優勝を果たしたティモ・ベルンハルト/ロマン・デュマ/マイク・ロッケンフェラー組で、合計 5,410.713 km でした (397 周、平均速度 225.228 km/h)。

- ・ 2015 年に優勝したポルシェ 919 ハイブリッドがレースで走破した距離は、5,382.82 km でした (395 周、平均速度 224.2 km/h)。2016 年に優勝したポルシェが走破したのは、5,233.54 km でした (384 周、平均速度 216.4 km/h)。

- ・ 2016 年のレースで、919 によって最高速度を叩き出したのはブレンドン・ハートレーで、50 周目のミュルサンヌの下りストレートで 333.9 km/h をマークしました。最長の加速フェー

ズとなるのは、テルトル・ルージュ後、ミュルサンヌストレートにかけてで、距離は 1,940 m あります。

- ・ 最もハードなブレーキングゾーンはミュルサンヌストレートが終わる部分で、わずか 190 m の間にドライバーは 200 km/h 減速します。

- ・ この 24 時間サーキットには 21 箇所にコーナーがあります（9 箇所は左回り、12 箇所は右回り）。

- ・ そのうちの最速コーナーは「ポルシェカーブ」で、919 ハイブリッドは 245 km/h で駆け抜けます。

- ・ 最もタイトなコーナーは「アルナージュ」で、ドライバーたちは 85 km/h にまで減速します。

- ・ 1 周 13.6 km のうち、9.2 km は公道です。

- ・ 予選（水曜と木曜の深夜まで）では、180 人のドライバー全員が暗闇の中を 5 周以上走る必要があります。

- ・ 2017 年、ル・マンの夜は 1 年でもほぼ最短といえるほど短くなります。土曜日の日没は夜 10 時、日曜日の日の出は朝 6 時です。

- ・ 通常のレーシングモードでは、ポルシェ 919 ハイブリッドは最大でも 14 周ごとに燃料を補給する必要があります（レース中に約 30 回）。

- ・ 1 周（13.629 km）あたりの最大消費燃料は 4.3 リッターです。使用が許可されている回生システムからの電気エネルギー量は最大 8 メガジュール（2.22 キロワット時）です。

- ・ 燃料補給とホイール交換は、順次行うものとし、同時に行うことはできません。ホイール交換時には、1 つのホイールガンのみを使用し、4 人のメカニックだけが作業することができます。そのため、例えば F1 の場合よりも時間がかかります。

- ・ 通常、ドライバーが交替するのは新しいタイヤが必要になった場合だけです。夜間は 4 ステイントで、各運転時間は連続 3 時間以上となります。

- ・ レース中は、各ドライバーが合計 6 時間以上ステアリングを握る必要があります。どのドライバーも、6 時間のうち 4 時間以上運転することはできません。どのドライバーも、24 時間のうち 14 時間以上運転することはできません。

- ・ コース全長が長いので、ル・マンでは 3 台のセーフティカーが待機します。

- ・ サーキットに持ち込まれる機材は、スペアシャシー×1、内燃エンジン×4、フロントギアボックス×4、リアギアボックス×4、フロントセクション×6 とリアセクション×6、リム×60、無線機/ヘッドセット×100 以上などです。

・ 各タイプのタイヤを使用することができます。3種類のコンパウンドのドライコンディション用スリックタイヤ、オールコンディション用ハイブリッドタイヤ（プロファイルなし、ソフトなカバー）、およびウェットウェザータイヤです。

・ ル・マンでは、26万人以上の観客と、約1,400人のメディア関係者（出版、写真、テレビ、オンラインメディア）が予想されます。

全スコア：<http://www.fiawec.com/courses/classification.html>

全結果：<http://fiawec.alkamelsystems.com>

<p style="text-align: center;">＜本件に関する読者からのお問い合わせ先＞ ポルシェ カスタマーケアセンター 0120-846-911 ポルシェ ホームページ http://www.porsche.com/japan/</p>
